月報
岡崎の教育

平成26年10月1日
10月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
岡崎商工会議所女性部会長
山本万利子氏
この人に聞く …… 2
『岡崎紙』開発プロジェクトチーム代表
井土　道恵氏
羅針盤 …… 2
六ツ美北部小学校長
澤田　祥明
ふれあい …… 3
生平小　小川　恭平
特　集 …… 4
街に広がるＪＡＺＺ
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
昭和三陸地震への慰問品発送（昭和８年）
この本を …… 8

教育随想

女性の笑顔で岡崎を元気に！

岡崎商工会議所女性部会長
山本万利子　氏

岡崎商工会議所女性部は、事業経営者としての資質向上を図るための研鑽を積み、相互の交流・啓発活動を通じて、企業の発展、地域社会の繁栄、文化の発展に貢献することを目的に設立されました。

活動としましては、三委員会（情報・研修・地域活性化）を中心とした例会・委員会活動に積極的に取り組み、さまざまな分野で活躍されている講師を招いての講演会、岡崎内外の企業の視察などを行っています。ホームページ等を活用したタイムリーな情報発信をし、女性部の元気を内外に発信しております。

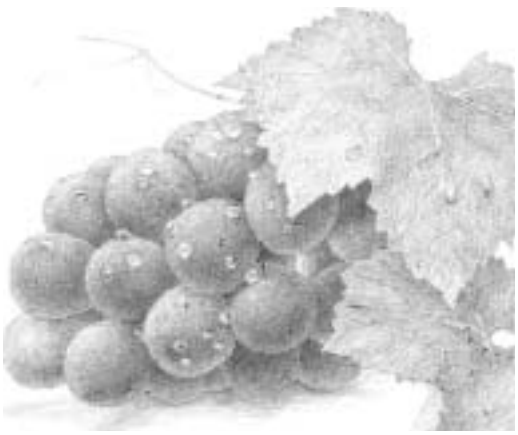
いろいろな年代のいろいろな職業の女性経営者がいますが、元気で一生懸命な方ばかりなので、どの例会でも、学んだことを自社にいかに取り組んでいったらいいのかを考えて参加している姿勢に、私ももっと頑張らないといけないと感じています。

本年度は「過去を知り、今を知り、未来につなげる」をテーマに掲げ、九月二〇日に植田美津恵氏による「乳がん　予防から治療まで」の講演会と乳がん・骨粗しょう症検診、身体測定、各種相談など行いました。これは、会員のみでなく、広く一般の方にも参加していただきました。これを機会に、普段はご自身のことは後回しにして頑張っている多くの女性が、ご自身の体について一度振り返ってしっかりと健康チェックするきっかけになったのではないかと思っております。

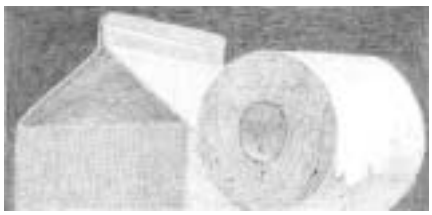
こうした女性部の活動を通して、家庭と仕事を両立して頑張っている女性が元気であることは、家庭を明るくし、より多くの笑顔が溢れることで、地域社会を幸せにすることに繋がると考えています。

岡崎市の学校教育におかれましても、女性が活躍できる明るい地域社会づくりにつながる指導を進めていただけるとありがたく思います。

（やまもと　まりこ）



この人に聞く



リサイクルで人をつなぐ

「岡崎紙」開発プロジェクトチーム代表
井土　道恵　氏

事務所の机に並ぶ「岡崎紙」。その包装紙には「自分のケツは自分で拭く。先週、あなたが見ていたカタログが今日トイレットペーパーとして使われます」と書かれている。使った紙は、ごみとして捨てるのではなく、きちんと分別してリサイクルをしてほしいという、井土さんの熱い願いがこめられている。

名古屋から嫁いだのは、岡崎で三代続く古紙回収問屋であったが、家業にかかわることなく専業主婦として五人の子を育てた。

「子供会の会長として資源回収もしました。資源回収は地域の大人と子供が一緒に作業をします。また、人から人へ古紙が手渡されるので、人とのつながりもできます。資源回収をするうちに、自分の住む地域の人たちとの結びつきができ、岡崎に対する愛着が強くなっていったような気がします。」

次第に古紙回収業にも興味が湧き、自然と家業に携わるようになっていった。そんなとき、新聞紙が大量にごみとして廃棄場に出されているのを見てがく然とした。このままでは、ものを大切にする気持ちも、人とのつながりも薄れていってしまうという危機感を覚えた。

「新聞紙をごみにしないためには、自分が出した紙がどのように再生されていくのか、はっきりとした形にして目に見えるようにすることが大切なのではないか、と思うようになりました。」

そこで、岡崎市で出た古紙は岡崎市で循環していこうという地産地消の考え方にいきつき、この「岡崎紙」開発プロジェクトを立ち上げた。

「最初はコストがかかりすぎたりして、自社内の理解が得られませんでした。しかし、包装紙を自分たちでデザインしたり、一個一個の包装を手作業で行ったりしてコストを抑え、なんとか商品化することができました。機関誌や地元放送で紹介され、少しずつ岡崎の皆さんに知ってもらえるようになりました。」

現在、岡崎商工会議所が主催するおかざきファーマーズマーケットで、月に二回、ロール紙の交換を行っている。

「古紙十五キログラムにつき、『岡崎紙』一ロールと交換しています。最近は常連さんができて、このペーパーはこの前出した紙からできたものかもしれないね、などと言ってもらっています。」

自分たちが出した紙を使って「岡崎紙」ができているというつながりを実感してもらうことができた。

「本当は古紙を使わずにロール紙を作った方が費用も安くできます。でも、リサイクルは費用の問題ではありません。手間もかかりますが、紙を使った人みんなで、分別の手間、回収の手間を分担し合っていくことがリサイクルの本来の姿だと思います。そうすることで、人と人の横のつながりができていくものです。これをきっかけに、人も物も大切にする心を培っていってほしいと願っています。」

地元で使用した資源を地元で再生するという、人と人をつなぐ井土さんの試みは、近隣の市町にも広がりつつある。

（氏　名　いど　みちえ
住　所　岡崎市大樹寺町）

羅針盤

岡崎の美術教師

六ツ美北部小学校長
澤田　祥明

「全部面白い。子供にはかなわない。」

これは、昨年度、おかざきっ子展にお招きした彫刻家の三沢厚彦氏が子供たちの作品を目の前にして、最初に発した言葉である。三十一年前、第二十回のおかざきっ子展に訪れた岡本太郎氏も、「私はいまだかつて、こんなに子供たちの心が素直に表された大きな野外展を見たことがない。ピカソも岡本太郎もかなわねえや」と言われた。奇しくも、その時代を代表する二人の芸術家が、同じ言葉を口にされたのである。これは、私たち岡崎の美術教師にとって大変うれしいことであり、おかざきっ子展を誇りに思う瞬間でもあった。

第一回展は、昭和三十九年に、市内の籠田公園で開催された。半世紀前、「子供たちが日ごろの図工・美術の授業で一生懸命作った作品をでき

生き物のつながりを学ぶ

生平小　小川　恭平

生平小学校では毎年「学級の愛鳥」を決めて、ふるさとの自然を学ぶ活動をしている。五年生の愛鳥はシジュウカラだった。子供たちはシジュウカラが巣に入ることを願って学校や地域の数か所に巣箱をかけた。

ある日、学校の裏山の巣箱にシジュウカラの営巣が確認できた。クラス全員が喜んだ。A子はいち早くスコープをのぞき、素直に喜びの声をあげていた。

しかしその翌朝、巣箱の穴から見えたのは蛇であった。早速巣箱を取り外して中の様子を見た。小さな巣箱の中に体長一メートルを超えるアオダイショウがとぐろを巻いていた。取り出してみると、体の一部が妙な形に膨らんでいた。かえったばかりの雛を丸飲みしたようである。

「蛇ってひどい。絶対に許さない。」

憤りを抑えられないA子の発言であったが、生き物のつながりを考える良い機会と考え、「蛇のしたことを、みんなはどう思うか」とクラスに投げかけた。最初は「びっくりした」、「ひどい」などの言葉が多く聞かれた。その中で「蛇だって生きるために食べたのだから仕方がない」と答える子がいた。一方的にアオダイショウを悪者扱いする雰囲気もあったが、この一言で蛇の立場にも目を向ける子が出てきた。

後日、蛇同様、多くの子が嫌う蛾を取り上げ、「蛾は私たち人間の生活に必要だろうか」という課題で話し合いを行った。A子をはじめとして、クラスの半数ほどの子は、「蛾なんて気持ち悪いし、必要ない」という思いをもっていた。しかし、シジュウカラの餌として蛾も必要だと言う子もいた。その子たちに対して、「みんなはシジュウカラを食べて生きているわけではないから、鳥もその餌の蛾も必要ないのでは」と問い返した。子供たちは答えに困っているようであった。「やはり必要ない」、「人間にとって必要がなくても、蛾がいなくなるのはよくない」という意見に分かれたまま時間が過ぎていった。

ここは、里山の多様な生態系について調べ学習を進めているB子の出番だと考えた。クラスの子供たちに対し学習ファイルを振り返って、考えをまとめるように指示を出した後、B子に声を掛けに行った。するとすでにB子は何かを描き始めていた。それは、虫媒による受粉という形で森林にとって蛾が必要なことと、人間にとって森林が必要なことを表す図であった。その図をみんなに紹介し、森に生息する生き物の役割を考えさせた。話し合いの結果、蛾も蛇も森林全体を通して考えると必要であることを子供たちは理解した。

「憎いから、嫌いだからと言って排除すると、結局生き物のつながりをなくしてしまう。」

と言うA子の表情は明るかった。

この後、里山の手入れをすることが森の生き物の共存を助けることを学んだ。そして、全員で学校裏山の間伐を行った。そこには、生命のつながりへの思いをもって一生懸命に作業を行うA子の姿があった。

るだけ多くの人に見てもらいたい」「子供たち一人一人が持っている素晴らしい創造力を伸ばしたい」、そんな先達の熱意と願いから生まれたのである。

私が岡崎の美術教師となり、おかざきっ子展に自身の授業の作品を初めて出品したのは、昭和五十四年の第十六回展である。このとき、他校の優れた作品を見て、「この題材は何をヒントにしたのだろう」、「材料は何を使っているのだろう」、「どんな道具で作ったのだろう」等々、聞きたいことが次々に出てきた。先輩の先生に尋ねると、どんな質問にも丁寧に答えていただけた。先輩と話をする中で、いちばん心に響いたのは、「今年と同じ題材で、来年も制作させることはしないよ」という言葉だった。以来、「毎年違う題材に挑戦する」ということが、自らの美術教師としてのポリシーになった。はじめのうちは、毎年新しい題材を開発するのが苦しかった。しかし、それが教材研究のよい機会になり、徐々に楽しみになっていった気がする。

岡崎の美術教育の発展におかざきっ子展の果たした役割は大きい。岡崎の教師にとって、おかざきっ子展は誇りであり、大きな宝である。

▲ ジャズ出前コンサートでトランペットを吹く子供（羽根小）

岡崎の玄関口であるＪＲ岡崎駅、名鉄東岡崎駅の改札を出て、岡崎に一歩足を踏み入れると、軽快な音楽が耳に入り、ジャズの世界に引き込まれる。岡崎は「ジャズの街」と言われている。そこには、半世紀以上にわたりジャズミュージシャンを応援し続けている内田修氏と、その思いを受け継ぎ、自分たちの手でジャズの活動を盛り上げていこうと働きかけている人々がいる。

岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）にある、「内田修ジャズコレクション展示室」では、レコードや書籍、楽器、譜面などの資料や、第一線で活躍する人々の映像

ジャズ出前コンサート

希望する学校（毎年二校）に、プロのミュージシャンが来校して体育館等で演奏をしてくれる。音楽部とのジョイントコンサートも可能である。現在は、小学校のみを募集対象としている。

「ジャズ出前コンサート」の活動記録

平成15年	竜南中
平成16年	六ツ美西部小、矢作中
平成17年	岩津小、矢作北中
平成18年	下山小、竜海中
平成19年	緑丘小、東海中
平成20年	美合小、葵中
平成21年	常磐南小、岩津中
平成22年	形埜小、大樹寺小
平成23年	六ツ美中部小、宮崎小
平成24年	城南小、梅園小
平成25年	羽根小、矢作南小
平成26年	矢作西小、恵田小

▲ 竜海中（平成18年度）

▲ 緑丘小（平成19年度）

「挑戦！そして楽しく！」をモットーに難しい曲にも果敢に挑戦し、ジャズの楽しさや、「ジャズの街岡崎」を市内・外に発信している。毎月、第二・三・四土曜日の午後にりぶらで練習に励んでいる。対象は、小学校四年生から高校生までで、新規メンバーを随時募集している。

「ジャズの街　岡崎」のあゆみ

平成五年一月
内田修氏が、自身のジャズコレクションを岡崎市に寄贈

平成十四年四月
岡崎市シビックセンターにジャズコレクションを展示する「資料室」がオープン

平成十五年十一月
ジャズ出前コンサート開始

平成十八年十一月
岡崎ジャズストリート開始

内田修氏の紹介

昭和四年、岡崎市生まれ。大学時代にジャズの生演奏を聴いて、その魅力にとりつかれる。昭和三十六年、市内に外科病院を開業する。医業の傍ら院内にスタジオを開設し、数多くのミュージシャンを迎え入れて交流・支援した。平成五年、レコードや私家録音源など膨大な資料を岡崎市に寄贈した。世界に類を見ないコレクションである。

を見ることができる。これらは、日本のジャズの歴史を検証する貴重な資料であり、音楽文化の資産としても大切に保存整理されている。これらのコレクションが岡崎市に寄贈された平成五年から、ボランティア団体とも協力して、岡崎をジャズの街にしようとする活動が始まった。

その活動は、現在では、有名なミュージシャンの生演奏が街中で聴ける「岡崎ジャズストリート」や、楽器を持って集まればプロのミュージシャンと一緒に演奏が楽しめる「まちなかジャムセッション」など、市民が参加できる活動へと広がりを見せている。また、子供たちがプロのミュージシャンに演奏の仕方を学び、ジャズの楽しさを体感できる「りぶらジャズオーケストラJr.岡崎Beanzz（ビーンズ）」や、希望する学校にプロのミュージシャンが来校し演奏を聴かせてくれる「ジャズ出前コンサート」などもある。

子供たちが本物のジャズに触れて、ジャズの楽しさを体感することで、子供たちの豊かな心の醸成につながることを願っている。

ジャズは、お客さんと演奏者、または演奏者同士のコミュニケーションを大切にする音楽です。個性と協調性をバランス良く表現する大切さを、子供たちに学んでもらえるとうれしいです。

▲ 岡崎市立中央図書館
内田修ジャズコレクション担当
三浦健仁　氏

問合せ先：図書館交流プラザ
岡崎市康生通西四丁目七十一番地
TEL　二三―三一〇〇

りぶらジャズオーケストラ Jr.岡崎 Beanzz

平成25年度 Beanzzの主な活動記録

4月13日	5期生入団
7月29日	合宿
8月1日	岡崎城下家康公夏まつり Beanzzジャズライブ出演
8月10日	ミニライブ
9月7日	Student Jazz Festival 2013中部大会出場
9月23日	岡崎城二の丸能楽堂コンサート
10月14日	Swing Kids交流イベント参加
10月20日	徳川園ガーデンジャズフェスティバル出演
10月26日	ミニライブ
11月2日	岡崎ジャズストリート2013出演
11月16日	りぶらまつり2013オープニングセレモニー出演
12月21日	クリスマスミニライブ
3月23日	第5回定期コンサート

▲ 第5回定期コンサート

▲ クリスマスミニライブ

平成十八年十二月
矢作ジャズナイト開始

▲ 康生町

▲ やはぎ館

平成二十年十一月
りぶら内に「内田修ジャズコレクション展示室」がオープン

平成二十一年十月
「りぶらジャズオーケストラJr.岡崎Beanzz」結成

平成二十四年十一月
「まちなかジャムセッション」開始

▲ 岡崎城二の丸能楽堂

平成二十五年七月
名鉄東岡崎駅にジャズの音楽が流れ始める。壁画も完成

▲ ジャズが流れる名鉄東岡崎駅(北口)地下道

お知らせ

●教育最新情報

○研究発表会案内

十月、十一月、二月に、小学校六校、中学校一校で研究発表会が開催される。

市が研究を委嘱している学校は、豊富小学校、葵中学校、愛宕小学校である。愛宕小学校については、文部科学省教育課程研究指定も受けている。また、葵中学校については、パナソニック教育財団実践研究助成特別指定校、文部科学省ＩＴＣを活用した教育推進に資する実証事業実証校に指定されている。

◆岡崎市立井田小学校

十月十日（金）

※自主発表

「井田ッキーのふるさと創生～魅力ある『ふるさと井田』を創造する子供の育成～」

井田ッキーとは井田小学校のシンボルであると同時に、子供たちの分身でもある。

学区の魅力や問題点を発見し、未来の学区の理想像や地域振興のためにできることを考え、創造し、発信する活動を通して、学区を愛し誇りに思う子供を育てている。

◆岡崎市立豊富小学校

十月十五日（水）

※市研究委嘱（Ｈ24～）

「ふるさとを愛し、ふるさとを守り育てる子どもの育成―ふるさとの「ひと」「もの」「こと」から協同的に学ぶ場を通して―」

とよとみ学習と道徳を中心に、地域を愛する心を育むことを通して、持続発展可能な社会の担い手となる子どもの育成を目指してきた。

当日は、授業公開、授業者と語る会を行い、名古屋大学大学院准教授久野弘幸氏に講評をいただく。

◆岡崎市立葵中学校

十月二十二日（水）

※文科省実証校委嘱（Ｈ26）

市研究委嘱（Ｈ26～）

「学び合い・磨き合いを軸にした、思考力・判断力・表現力の育成～ＩＣＴの幅広い活用法と、生徒が自ら求めてＩＣＴを活用する場の追究～」

ＩＣＴ機器や各種のソフトウェアを活用し、授業の活性化を図りながら、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

当日は、全教科の公開授業を行い、授業別協議会を行う。

◆岡崎市立本宿小学校

十月二十九日（水）

※自主発表

「生きる力を育む小学校英語の創造2014～英語が話せる本宿っ子をめざして～」

自分の思いや考えを英語で伝え合い、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を追求して研究六年目を迎えた。

当日は、Ｅタイム（ＤＶＤ視聴）と英語活動の授業公開、授業を語る会、文科省調査官直山木綿子氏の講演を行う。

◆岡崎市立愛宕小学校

十一月十二日（水）

※市研究委嘱（Ｈ24～）

「見たい 知りたい 学びたい 目指せ スーパーサイエンスキッズ～活用する場を活かす理科の授業～」

子供が理科等で学んだ知識や技能を自然や日常生活に関連付け、問題を解決することで、スーパーサイエンスキッズに迫ることを目指し、教師の支援方法を追究している。

当日は、授業公開、授業を語る会を行い、筑波大附属小鷲見辰美氏に講評をいただく。

◆岡崎市立矢作南小学校

十一月十八日（火）

※授業研究協議会

「子どもたちの対話力を育む学びの創造～対話を通して思考を深める授業づくり」

聴き合う関係が対話力を育む基盤となると考え、授業づくりに取り組んできた。当日は、対話を重点的に扱う単元で「ユニバーサルデザイン」の考えを取り入れた授業を全学級公開する。鳴門教育大学大学院教授西村公孝氏から御指導を受ける。

◆岡崎市立連尺小学校

二月十三日（金）

※公開授業

「ＥＳＤの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺モデル―コミュニケーション能力を思考力・実践力へ―」

算数の教科書を中心とした、四十五分の授業による問題解決学習「岡崎・連尺モデルⅡ」として、子供の思考力を深め、「二十一世紀型実践力」を身に付けさせる。

当日は、授業公開、授業協議会、文科省調査官笠井健一氏の講演を行う。

●表　彰

◆全日本吹奏楽コンクール東海大会

○Ｂ編成の部

銀賞　甲山中学校

◆愛知県吹奏楽コンクール県大会

○Ｂ編成の部

金賞　甲山中学校（上位大会出場）

○Ａ編成の部

金賞　美川中学校

銀賞　六ツ美中学校

竜海中学校

北中学校

矢作中学校

◆中部日本吹奏楽コンクール

愛知県大会

○大編成の部

金賞　竜海中学校（上位大会出場）

金賞　北中学校

銀賞　矢作中学校

翔南中学校

○小編成の部

銀賞　矢作北中学校

◆ＮＨＫ全国学校音楽コンクール愛知県コンクール

○小学校の部

金賞　根石小学校（上位大会出場）

三島小学校

銀賞

○中学校の部

銀賞　竜海中学校

六ツ美北中学校

◆愛知県合唱コンクール

○中学校部門　同声合唱の部

金賞　六ツ美北中学校（上位大会出場）

竜海中学校

矢作中学校

金賞

銅賞

◆平成26年度愛知県小学校バンドフェスティバル

金賞　大樹寺小学校

銀賞　美合小学校

◆平成26年度愛知県教育文化奨励賞

知事表彰　六ツ美北中　合唱部

◆第44回愛知県野生生物保護実績発表大会

愛知県知事賞　生平小

愛知県教育委員会賞　河合中

日本野鳥の会支部長賞　美合小

◆全国中学校体育大会

○男子バスケットボール

ベスト8　北中学校

○男子バレーボール

ベスト16　竜海中学校

○男子ソフトテニス

出場　矢作中学校

○陸上（個人）
・男子3000m
出場　矢作中　長谷部航
・男子3000m
出場　六ツ美中　森　俊輔
・男子400m
出場　常磐中　宇野佑亮
・男子800m
出場　常磐中　奥野　凱
・男子1500m
出場　美川中　藤田研太
・男子走高跳
出場　竜海中　遠山大地
・男子走高跳
出場　東海中　大海　慶
・女子100m
6位　六ツ美北中　山本里菜
・女子4×100mR
6位　六ツ美北中
安井・深町・沖田・山本
・女子共通4種競技
出場　美川中　加藤紗佳子
・女子200m
出場　竜海中　佐野文香
・女子800m
出場　常磐中　宇野佑紀
・女子800m
出場　矢作中　細井衿菜

○水泳（個人）
・男子400m個人メドレー
6位　城北中　中濵亮太
・男子200m個人メドレー
7位　城北中　中濵亮太
・男子100m自由形
7位　甲山中　渡邉千陽
・男子100mバタフライ
出場　矢作北中　菅田慎悟
・男子50m自由形
出場　甲山中　渡邉千陽
・男子200mバタフライ
出場　矢作北中　菅田慎悟

○剣道（個人）
出場　北中　近本太郎

◆東海中学校総合体育大会

○男子バスケットボール
2位　北中

○男子バレーボール
3位　竜海中

○男子ソフトテニス
3位　矢作中

○陸上（個人）
・女子800m
優勝　常磐中　宇野佑紀
・女子100m
2位　六ツ美北中　山本里菜
・女子1年800m
2位　竜海中　稲葉朱音
・女子4×100mR
3位　六ツ美北中
安井・深町・沖田・山本
・女子低4×100mR
3位　甲山中
山口・永井・田中・小禄
・女子砲丸投げ
4位　竜海中　近藤沙南
・女子1500m
6位　矢作中　細井衿菜
・女子1年800m
8位　竜海中　稲葉朱里
・男子1年1500m
5位　矢作北中　永井翔真
・男子走高跳
5位　東海中　大海　慶
・男子400m
8位　常磐中　宇野佑亮
・男子800m
8位　常磐中　奥野　凱

○水泳（個人）
・男子100m自由形
優勝　甲山中　渡邉千陽
・男子200m個人メドレー
優勝　城北中　中濵亮太
・男子400mフリーリレー
2位　城北中
中濵・牧・宮本・林
・男子100mバタフライ
4位　矢作北中　菅田慎悟
・女子200m背泳ぎ
4位　城北中　千明楓花
・男子100m平泳ぎ
5位　岩津中　畑野良将

○柔道（個人）
・女子44Kg級
優勝　南中　堂﨑月華
・男子60Kg級
3位　東海中　竹市大祐

○剣道（個人）
・女子
3位　矢作中　室屋悠望香

○相撲（個人）
ベスト8　葵中　中村吏希

◆愛知県大会

○男子バスケット
優勝　北中学校
3位　城北中学校

○男子バレーボール
優勝　竜海中学校
3位　矢作北中学校

○女子バレーボール
優勝　南中学校
3位　北中学校

○男子ソフトテニス
優勝　矢作中学校

○女子ソフトテニス
3位　矢作中学校

○女子陸上
2位　竜海中学校
4位　六ツ美北中

○女子卓球
3位　北中学校

○女子剣道
3位　矢作中学校

○男子水泳
4位　城北中

○陸上（個人）
・男子3000m
優勝　矢作中　大会記録
・男子走高跳
2位　東海中　大海　慶
・男子3000m
3位　六ツ美中　大会記録
・男子110mH
3位　六ツ美中　森　俊輔
・男子砲丸投
3位　美川中　中村達郎
・女子3年100m
優勝　六ツ美北中　山本里菜
・女子800m
優勝　常磐中　宇野祐紀
・女子4種競技　大会記録
優勝　美川中　加藤紗佳子
・女子4×100mR
優勝　六ツ美北中
安井・深町・沖田・山本
・女子1年800m
2位　竜海中　稲葉朱音
・女子砲丸投
2位　竜海中　近藤沙南
・女子低100m×4R
2位　甲山中
山口・永井・田中・小禄
・女子1年800m
3位　竜海中　稲葉朱里

○水泳（個人）
・男子100mバタフライ
優勝　矢作北　菅田慎悟
・男子200m個人メドレー
優勝　城北中　中濵亮太
・男子400m個人メドレー
優勝　城北中　中濵亮太
・男子50m自由形
優勝　甲山中　渡邉千陽
・男子100m自由形
優勝　甲山中　渡邉千陽
・男子200mバタフライ
2位　矢作北中　菅田慎悟
・男子400mフリーリレー
3位　城北中
中濵・牧・宮本・林

○ソフトテニス　男子
・2位　美川中　安藤・森

○剣道（個人）男子
・優勝　北中　近本太郎

○柔道（個人）
・男子60kg級
3位　東海中　竹市大祐
・男子81kg級
3位　竜南中　橋本晟弥
・女子44kg級
2位　南中　堂﨑月華
・女子70kg級
3位　北中　篠原萌香

◆第49回交通安全子ども自転車愛知県大会
団体の部
準優勝　竜美丘小

◆第27回岡崎市中学生の主張コンクール
優秀賞
東海中　平木絵理子
六ツ美中　小早川妃那
南中　三浦由莉
北中　加納蓮佑

◆第56回岡崎市小中学生英語スピーチフェスティバル
入賞者

○一般の部
六ツ美北中　原田紗妃
福岡中　中瀬弥生
翔南中　横井大地
竜南中　多賀瑞希
葵中　岩本尚大
河合中　鈴木開登
常磐中　柴田新斗

○帰国子女の部
南中　庄子航平

昭和三陸地震への慰問品発送

（昭和８年）

写真提供：広幡小学校

・カット　翔南中　金澤一幸

今から約八十年前の一九三三年三月三日、「東日本大震災」と同じ東北地方で、大きな地震が発生している。岩手県釜石市の東方沖、約二〇〇キロメートルを震源とする「昭和三陸地震」と呼ばれるものである。そのときも三陸海岸には、大津波が襲来し、死者と行方不明者を合わせて三〇六四人という甚大な被害をもたらした。

広幡小学校の沿革史をひも解くと地震の発生の約二週間後となる三月十八日に、三陸地方へ慰問品を発送したことが記されている。写真中央の木箱のふたに「岩手県庁三陸地方救恤部行」と宛先が記されていることから、この木箱の中に慰問品を入れて送ったと思われる。

東日本大震災のときも、岡崎市内の小中学校では多くの義援金・救援物資を寄せているが、この一枚の写真から、「他を思いやる心」は、今も昔も変わらないことをうかがい知ることができる。

オアシス

岡崎から出た古紙は岡崎で循環させる。地元を愛し、リサイクルにかける情熱が、岡崎オリジナルのトイレットペーパー「岡崎紙」に行きついた。

人とのつながりや、ものを大事にする心を何よりも大切にし、手間がかかっても、こだわりをもって作り続けている。挑み続けるその姿勢は、周りの気持ちをも奮い立たせる。

ジャズの街岡崎といわれるようになるまでの二〇年以上の間、ジャズの普及活動を支えている人たちがいる。アメリカ生まれの音楽を、岡崎の街に溶け込ませるまでの苦労は計り知れない。その活動に尊敬の念を抱く。これからはさらに、ジャズを広めていく活動により子供たちの笑顔があふれることを願っている。

「あっ、カワセミ」と子供の弾んだ声。その声に吸い寄せられるように、川面に視線が集まる。ほんの一瞬であるが、色鮮やかなカワセミがヒスイ色の影を残して飛び去っていく。その姿を見た子供たちは、教室へ入ってくるなり、「ラッキー、カワセミ見られたよ」と報告し合い、笑顔が広がっていく。

子供たちは大人が気付かない間に、着実に成長の歩みを進めている。四月に出会った子供たちはこの半年でどう変わっただろうか。行事の多い秋、子供たちのさらなる成長に目を向けたい。

涼しさや赤子にすでに土踏まず　高田広子

この本を

＊心配事の９割は起こらない　枡野　俊明
三笠書房　￥1,200

心に残った一文

みなさんのまわりの「あたりまえ」のことを、一度、見直してみませんか？

「幽霊の正体を見たり枯れ尾花」と言う。これは、幽霊と恐れていたものが、実は枯れススキだったということである。人は、とかく妄想や思い込み、勘違いや取り越し苦労に振り回されることが多い。

心配事の先取りをせずに今、ここだけに集中する生き方、例えば、悩むより動く、人と比べない、前向きに受け取る、お先にどうぞ、朝を大切にする等々が、心の安らぎをもたらす。減らす、手放す、忘れることにより、いつの間にか前向きに生きている自分に出会うことができる一冊である。

＊叱られる力　阿川佐和子
文春新書　￥800

＊「切れない絆」をつくるたった1つの習慣　植西　聰
青春出版社　￥950

＊意識力　宮本　慎也
PHP新書　￥760

竜谷小　小島　寛史